

認知症の介護

認知症の方の介護は「その人の頭の中を考えながらやりなさい」と私は言っていますが、では、実際に私の病院で働いている人たちは、現場でどこに注意して介護に当たっているか、書いてみたいと思います。

まず、介護の専門家（プロ）が考えていることの一つは、「百人の認知症の人がいれば、百通りの介護の方法がある」ということです。

つまり、不幸にして認知症になつてしまったおじいちゃんやおばあちゃんたちは、顔や性格が違うように、これまで生きてきた環境や人生が違ふということを分かつたうえで介護をしているということです。

ですから、ファーストフード店のようなマニュアル通りにはいきません。

例えば、ある人が夜中に騒いでいるとしましょう。家庭なら、その行為をしなかったり、脅かしたりして強引にやめさせようとするでしょう。



おばあちゃんたちは、顔や性格が違うように、これまで生きてきた環境や人生が違ふということを分かつたうえで介護をしているということです。

そのときに必要なのが、「なじみの顔」と「やさしいまなざし」だということも、プロは当然分かつています。

つまり、介護の専門家が認知症の人の「情緒の安定」を常に心がけていることが、

これでお分かりになったでしょう。



高齢者の体シリーズ⑩ 『急に立つたら、目の前が暗くなり、気が遠くなる〜!』

副院長 八鍬秀之

急に立つたら、目の前が暗くなり意識がなくなることがあります。

失神です。失神とは一時的な意識消失で自然に回復するものをいいます。高齢者ではよく見られる症状です。失神は高齢者で増加し、また転倒時に骨折や頭部外傷を引き起こす危険な症状です。高齢者の転倒の30%は失神が原因といわれます。

失神の原因としては、心原性と非心原性があります。不整脈や弁膜症などの心臓が原因の心原性失神は命にかかわり、医学的な治療が必要ですので病院受診が第一となります。

ここでは、非心原性失神についてお話いたします。まず神経調節性失神です。痛み刺激や、排尿時（排尿失神）、排便時（排便失神）、咳をした時（咳失神）などです。いずれも自律神経の調節や反射がうまくいかずにおこります。

次は起立性低血圧です。急に立ち上がった時に目の前が暗くなり、

ひどい時には失神を起こします。急激な起立で脳の血流が低下し起こります。高齢者では反射が低下しており、また色々な薬を服用しているのが容易に起こります。

食後低血圧も高齢者ではよく見られます。食後に血圧が下がり失神に至ります。腸管の血流が増加し、そのため脳血流が低下し起こります。これも自律神経の調節障害が原因です。

いずれの失神も予防が大切です。自分が失神を起こす事を自覚し、原因となる行為をさけることです。痛みを避け、排尿・排便時は大きくいきまないこと。急激に立ち上がらないこと。また過食をさけ、食後は安静にすること等で。最後に危ないと思ったら我慢せず、すぐ横になってしまふことです。徐々に脳血流は回復します。ご自身及びご家族の注意で、失神及び転倒・外傷を防ぎましょう。